

一乗谷の 石仏研修に参加して

北村市朗



北陸石仏の会々報

第32号

平成19年5月10日発行

編集と発行

北陸石仏の会
(日本石仏協会北陸支部)
代表 北村市朗

〒939-1315
富山県砺波市太田1770
尾田武雄 方
電話 0763-32-2772
振替 00740-2-11974

(年会費 3,000円)

第三十三回の例会が福井市一乗谷で実施された。北陸独特のしぐれ模様を訪れとなっていた。平成十七年十一月十三日だったが幸いなことに暖かい好天に恵まれ、参加者全員の喜びであった。連絡のミスから福井インター出口で時間のロスがあつたが、事前の調査もしてあつたので以後は順調であつた。事前調査の際に愛宕義雄さんに会い、友人の宮下美弘さんお二人の古老による石仏群の説明を得ることが出来たのも最大な幸運であつた。その上お二人のお力で電柱を三本並べた丈の橋に竹で造つた手すりまで備えて下さり感謝の至りであつた。

全くのボランティアという村人の親切さで、多くの未発見の石仏にも逢うことが出来た。お二人も日頃温めて居られた蘊蓄を吐露されて満足そうでした。宮下さんは、日本史学会の会員でした。四〇〇年の歳月で破損した物が多いが、それでも像容を維持しているものが多くて、感激した。その上本会のメンバーには夫々の分野でベテランが多く、尾田さん、平井さん、柳澤副会長、中川さんと各時点で説明があり素人の私達にとつては、この上もない幸せなことでした。観音の種別はむずかしいが適切な説明があり、十一面観音、如意輪観音等もはつきりし、地藏菩薩、阿弥陀如来についても像容がその持ち物等によつて区別されていることもわかった。不動明王の脇侍の存在も平井さんに教えてもらい、柳澤さんからは京都清水寺の本尊の像型と同一の石仏を見つげられて説明

があった。中川さんからは京都から一乗谷に通ずる街道、峠の説明があり、特に越前に入ってから朝倉街道の思いが熱っぽく説明された。この街道には田んぼにひっそりと残る廃寺の本堂礎石のあったこと等も思い出した。特にこの街道筋に石仏が尊置されていることにも往時を偲ぶことが出来る。石仏で最大の物が西山光照寺跡にあったが、この天台宗と同じ天台宗の旧武生市の窓安寺と天台眞盛宗の中本山引按寺には、地藏菩薩と不動明王が一對となつて夫々の寺に尊置され、市の指定文化財となつている。一乗谷の寺院には越前平野の寺として一乗谷が焼け滅された名で移転している。前出の西山光照寺は福井大仏として名高い大寺となり寺名も西山光照寺となつている。

とにかく好天であつたので下調べした地区より浄教寺と木戸の内の三ヶ所の見学が追加され、新しい発見があつた。特に甲冑かっちゅうを身に付けた甲冑不動明王を浄教寺地区で目にして写真に収めることも出来た。収穫の多い今回の旅であつた思いで、この会に参加している幸せに感激している。ただ一乗谷には朝倉、浅井連合軍による織田信長との戦闘、一向一揆の際に亡くなった人々の弔いの場が多い事を忘れてはならない。ただ単なる観光地にしてはならないと思う。

大きく言えば宗教上のメッカであると思つている。そうすることにより、この谷に眠る多くの人々も報われると思う者の一人である。今後の研修で新発見がありましたら報告したいと思う。参加した皆様に改めて感謝致したい。

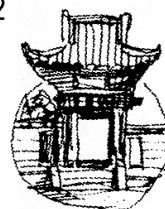
北陸石仏の会 第33回例会参加者名簿

- | | | |
|------|------|------|
| 富山 | 岩城義弘 | 柳沢栄司 |
| 砺波 | 齊藤謙一 | 大澤晴美 |
| 尾田武雄 | 平井一雄 | 南部金紀 |
| | 安井豊明 | 齊藤善夫 |
| | 松井兵英 | |

第35回例会案内

富山県上市町の石仏探訪

月 日 平成19年5月27日(日) 案内 平井一雄
 集合 集合 JR 砺波駅南口 午前7時30分 JR 富山駅北口 午前8時30分
 会費 3,000円(自家用車に乗り合わせ)
 申し込み 住所・氏名・電話番号・集合場所を記入の上はがきで
 申し込み先 〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方
 北陸石仏の会事務局 電話 0763-32-2772
 締め切り 5月23日(水) *昼食は各自持参してください



- ① 眼目山立山寺 ・昼食
 上市 大岩山日石寺前駐車場に駐車 食堂で昼食 原則食事持参
- ② 上市 大岩山日石寺 大岩日石寺磨崖仏
 不動明王二童子像(当寺の本尊)、阿弥陀如来像、僧形像の5体を凝灰岩の巨岩に半肉彫りで彫り出した磨崖仏。国の重要文化財および史跡に指定されている。
- ③ 善照寺 総本山 善通寺 富山別院 住職 上坂善照
- ④ 弓の里歴史文化館
- ⑤ 安楽寺 越中観音第二十九番礼所 富山県中新川郡立山町白岩 無住
 六地藏を入口に置き老檜を前にして本堂が建ち山門の正面で在る向拝の柱に石の観音と地藏を祀る。横には土蔵が残り白壁が翠に映える。境内石仏 六地藏他 牧喜右衛門作 地藏菩薩 三十三観音石仏(時間の都合により、弓の里、安楽寺見学を省略する場合もある)

16時頃解散

- | | | | |
|------|------|------|-------|
| 福井 | 金沢 | 橋本武志 | 橋本千代 |
| 北村市朗 | 滝本靖士 | 千秋謙治 | 飯田とし子 |
| | | 小林逸子 | 開沢笑子 |
| | 早川明子 | | 竹守澄江 |
| | | | 小西淑子 |

寺町・石仏探訪

復習の旅



(役立たずの道標) 十月二十二日の金沢への行事を後日一人で行って、ちがうアングルから見てきた。

出発点は犀川大橋。川の上流の山脈、左方は医王山か。蛤坂を上る。名前の由来は「享保の火事で蛤が口をあけたようだった」とある。三階建の山錦楼の前が妙慶寺。ここは高岡の牧野からきている。成業寺にはあの芭蕉の「あかあかとく」なる句碑があり、その前の常德寺には寒雉



の鐘がある。寒雉とは能登・中居の人、かくして野町・広小路からの寺町通りをクロスする。左角にあるのが大事な道標。小さく角の隅にありわかりにくい。そのため道標の役に立っていない。
(小生好みの寺は?)
右角の真長寺が十月二十二日のスタートポイント。となりの本長寺は福光の豪族石黒氏の菩提寺。

「うしろに大楓あり」とあるも?。旧道をゆく。右にあぶらとり紙とか諸江屋の看板があのぞいでいく。左の永証寺は、京都・本能寺系で庫裏がアズマダチ。右にあるのが忍持寺で名ある妙立寺。予約制で八〇〇円とは少し高い。きれいなトイレで用をたし、裏の願念寺へ。奥の細道で芭蕉が「どうしてもここへは」とした寺で、一笑塚と「つかもうこけ我泣く声は秋の風」の石碑がある。小生ここはどうしても寄りたかったところ。



一笑芭蕉関連の石碑 (願念寺)

(玉泉寺のルーツは何と) 元へ戻る。妙立寺の前には西方寺が。この寺は江戸初期には天台宗の触頭。門の右には鳥居があり稲荷大明神の赤旗と地藏さんの青旗があり、まさに神仏混淆。この前が三光寺でこの住職は彫刻がご専門のため、いくつもの作品がこの辺にある。入口にあるのは三十三観音か、数えてみると二十六。以下いくつかの寺にこのタグイがあり、数えても三十三ないのが多い。すぐ数える小生もよわったもの。となりが金剛寺。ここは守山(海老坂)からきており、末森城の守り本尊がここにある。さらにとなりが高峰しやうこう謙吉の菩提寺の国泰寺(臨濟宗)。そして広いスペースのところは北斗の広見。北斗とはこの地に関連のある六動太郎の六動からきたとか。ここには天満宮と玉泉寺(時宗)がありその玉泉寺のルーツが浄禅寺。越中・柳町の於保多の天満宮がそれとは。
(寺町通りには大きな寺が) 北斗の広見、東西にはいくつも寺があるが、赤い門の興徳寺の向拝は、右が本堂で左が鬼子母神と変わっている。バ

ス停野町五丁目に出て左へいくと、車の多い寺町通りに入る。その右角にあるのが大同寺。「人骨地蔵がある」というが何処に？

寺町通りを少し右へ行く。道の両側の長塀は寺の格式を示している。左、犀川辺りに下りるのがさくら坂、W坂。野町三丁目辺りでバック。今度は道の左側をいく。立派な立像寺は府中（武生）、能登、越中からここへ移ったという。富山・梅沢町に立像寺があり、関係があるかもしれない。この本堂は江戸初期の建物として貴重。裏の庭にはキリストゆかりといわれている灯籠がある。

（祐天？ 石碑とご対面）先の大同寺の信号をこしてすぐあるのが芋掘り藤五郎、金沢の名前ゆかりの伏見寺で、藤五郎の苔むした墓が左に。庫裏の入口、左右に多聞天、持目天があり、中には国の重文があるという。次は浄安寺、極楽寺と大きな寺が続く。後者では平井理事が「あそこに祐天の書体の石碑がある」といわれ写真をとる。一昨年同寺住職の巖谷氏にお会いしたとき、「石川にも一、二ある」といわれたその一つ

市政功労賞受賞おめでとうございます

教育文化功労



氏 三 金 南 (84歳・道林寺)

昭和59年に高齢者ボランティア養成講座「いしづみの会」が開設されて以来、20余年間の永きにわたる石碑の調査により、「小矢部のいしづみ」全16集の発刊に尽力されました。また、講師として郷土文化の伝承を行うなど、郷土史の解明と地域文化の発展向上に貢献されました。

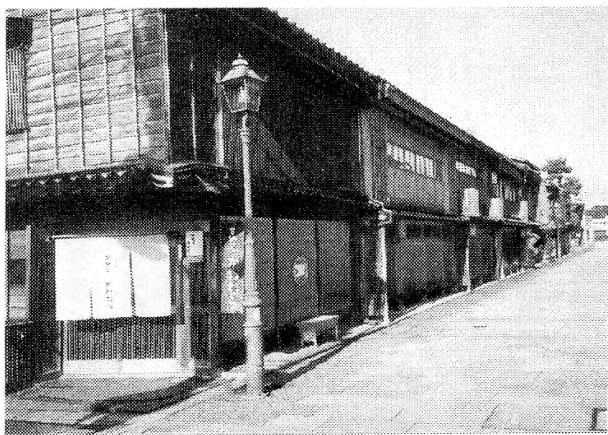
かもしれない。それにしても、ここのは粗末に扱われている……。かくして出発点の犀川大橋へは三時間の歩きであった。

（どうしても見たかったところとは！）犀星の両宝院・大蓮寺を見、野町・

広小路をこし、一つ右の通りにあるのが「にしの茶屋」。「ひがし」程でもないが、小生好みのところ。いちばん端の「甘納豆やかわむら」で少し買い、口にする。まさに至福のとき。いい味だった。少し高かったが。（車中での反省）①お寺の建物は前田ゆかりのものが多し。②府中（武生）・能登から移ってきたものが少しあるが、やはりわが越中からのが多かった。③他県からの寺まじりの人が多かった。④復習する歩きは、前の二倍、三倍の重みがあること……が今更ながらよくわかった。



祐天風の石碑（極楽寺）



にしの茶屋

北陸石仏の会 第34回例会参加者名簿

- | | | |
|----|-------|------|
| 富山 | 中川 達 | 藤田正時 |
| 砺波 | 斉藤讓一 | 尾田武雄 |
| | 平井一雄 | 平野重二 |
| | 西村多恵子 | 安井豊明 |
| | 小西淑子 | 町 義雄 |
| 金沢 | 滝本靖士 | 池田紀子 |
| 福井 | 北村市朗 | 中西幸路 |